

東洋鍼灸専門学校 昼間部自治会
令和6年度(2024年度) 活動報告書

今年度の活動について

1. 東鍼祭の開催や各委員会・部会の取り組みが保障できる財源の確保を目標に、活動を行った。

近年の物価高やコロナ禍、学生の減少を背景に原資である繰越金が目減りし、年度当初に満額確保できないまま予算が可決されてきた。学生が一時的に予算を立て替えることで、活動が継続できる状況が続いていた。

学年を超えて学生が自主的に学びあう委員会・部会の活動を維持し、また、学校の魅力や活動の成果を内外に伝える場として東鍼祭を開催できるよう「自治会費や寄付金に頼らず当初予算を賄える財源を次年度に引き継ぐ」ことを優先課題とした。

具体的には、例年120万円超の予算と同等か、それを下回る収入で運営されてきたため、前年度から引き継いだ50万円を差し引き、単年度で70万円以上の収入を得ることを目標とした。

また、収益性ばかりではなく継続的に収入を増やす方法として、自治会費を従前の年間2千円から3千円とする提案を行った。

(実施内容) ※主なものを抜粋

| 時期 | 企画名 | 内容 | 結果 |
|-----|------------|----------------------|---|
| 4月 | 予算立案説明会 | 各委員長、部長に予算案作成について説明 | 自治会の財務状況を伝え、東鍼祭で収益を得る活動を検討してもらった。 |
| 5月 | 年度予算作成依頼 | 自治会の予算案の作成 | 繰越金と自治会年会費で当初予算を出せるように、必要な収益を算出した。 各委員会・部会には予算の見直しと、東鍼祭での収益を意識した新たな取り組みを検討してもらった。 自治会費に頼らず卒業生謝恩会の費用を捻出するため、学年単位の予算案も可とした。 |
| 6月 | 自治会年会費説明会 | 年会費改定の説明 | 予算案の電子議決後、質問への応答として年会費の改定について説明会を行った。 |
| 7月 | 予算執行事務説明会 | 予算執行事務について説明 | 今年度から出納帳をつくり、担当が経年で収支を把握できるようにした。各会計担当に執行事務について説明した。 |
| 8月 | ミニぬか枕 販売 | 携帯用ミニぬか枕販売 | 各委員会・部会に依頼するだけでなく、執行委員会でも収益を上げるよう取り組んだ。東鍼祭関連事業として、108個売上。 |
| 11月 | 物販 | 東鍼祭にて物販 | 缶バッジ、ブックマーカー、手ぬぐい 等 |
| 1月 | 自治会への寄付金受領 | タッキー商店より寄付受領 | 自治会の財政立て直しのため協力を依頼し、活動費として売り上げの一部を拝受。 |
| 2月 | 墓前祭 | 墓前祭に参加する学生の集約、記帳の立会い | 学生や参列者へ、親族からの差し入れや、参列者からのお神酒を配布。 |

2. 自治会は、学生相互の親睦と交流、研究と修養、知識・技能の向上を図り、ならびに学習環境の整備改善を進めることを活動目標としている。しかし、学校行事の補佐的役割が多く、もっと在校生が必要とすることを把握し対応するため、自治会の活動を再検討した。

今年度は学生相互の親睦と交流を深める試行的取り組みとして、ぬか枕作りワークショップや実技試験の臨場感を上級生が伝える「東鍼道場」を新たに企画した。また、予算不足から、部活動で使用する材料費を個人が立て替えている現状を解消するため、2階鍼科教室前の廊下に掲示板を設置し、自治会が仲介して鍼や艾、部活で使用する材料の募集と無償提供ができるようにした。

(実施内容)※執行委員会単独で企画したもののみ抜粋

| 時期 | 企画名 | 内容 | 結果 |
|-----|------------|--|------------|
| 5月 | ぬか枕ワークショップ | ぬか枕づくりが課題に出る時期は入学して日が浅く、一人で家で作業をするのが大変だったこと、完成までなかなか合格がもらえず不安だったこと、助け合って作成したことをきっかけにクラスの仲が良くなった経験から企画。各クラスで作業できるよう伝えながら事後フォロー。 | 100名以上が参加。 |
| 8月 | 東鍼道場① | 実技試験ブースを体験。普段と違う試験ブースにとっても緊張するため、事前に片手挿管、フェルト、ティッシュ点火の体験ブースを設置。教務にも声をかけ、試験監督として協力してもらった | 80名以上が参加。 |
| 10月 | 掲示板設置 | 試行として個人ではなく部活に限定し、鍼や艾、布などを個人から募って『要ります⇔あげます』を自治会が仲介する取り組み。 | 実績なし |
| | 東鍼道場② | 経穴かるた大会。案は出たが未実施 | |

まとめ

数年のコロナ禍を経て世の中の経済状況も変わり、自治会の在り方やどのような活動が求められているのか、学生全体の理解を得られるよう何度も話し合いを重ね、手探りで活動を展開した。

1. 財政状況については各委員会・部会の協力を得て、前年度繰越金を除くと単年度で243万6188円の収入があり、支出を差し引き、繰越金174万6931円を次年度に引き継いだ。自治会費について年間3千円とすることについても総会にて可決され、当初予算を賄える財源を次年度に引き継ぐという課題は達成できた。

今後の課題として、今年度は収益性を意識し物販を多く行ったが、材料の手配や手作り品の作成作業など、準備の負担が大きかった。より良い活動を行うため、繰越金を維持し、安定した収入を得られる仕組みづくりが必要となる。東鍼祭実行委員とも連携し、同窓会への相談、卒業生や関係業者、東鍼祭パンフレッ

トからの広告収入などについても、前期中に検討できると良い。

2. 一年生の時に困った経験をもとに企画を行い、教務や執行委員以外のクラスメイトにも協力を得て、学年を超えて学生相互の親睦と交流を深めることができたと思われる。ぬか枕作りを通して、道具への愛着が湧き、クラスで協力するきっかけを提供できた。「東鍼道場」では2年生や教務からも多くの協力を得て、実際の試験に近い環境を一年生に体験してもらうことができた。

在校生が求めていることの中で自治会ができることは何か、検討していく過程が自治会の役割を考えることに直結する。また、教務に助言を仰ぎ、協力を得ることで学校と学生の風通しが良くなる。学生の自主的な活動であるため、経験して良かったものは引き継ぎつつ、年度ごとの特色で本業に無理のない範囲での企画実施ができるように検討していく必要がある。掲示板については時期が遅かったせいか学生の認知度も低く、活用法について今後検討が必要である。

その他

同窓会をはじめ、卒業生、タッキー商店に自治会の財政立て直しについて協力を仰ぎ、寄付金、お祝い金として総額 74 万 9832 円を受領した。頂いた厚意はより良い自治会活動のために活用し、引き続き相談助言を得られるよう、状況報告を適宜行っていくことが必要である。

令和7年(2025年)5月15日